

<第 22 回 震災対策技術展>

第 22 回「震災対策技術展」が 2 月 8 日～9 日の 2 日間、パシフィコ横浜で開催された。今年は、東日本大震災から 7 年目を迎える中で、忘れてはならない災害教訓が一過性とならないよう備える意識を高めなければならない。また、国民の多くが認知し活用されている緊急地震速報も精度向上への技術改善が進む中、10 年を迎えることとなった。災害の教訓を活かそうと 2 日間の来場者数は 18,657 名（昨年 18,468 名、震災展事務局発表）となった。

REIC では、今年も展示会場にブースを出すとともに、パシフィコ横浜アネックスホールにて、国立研究開発法人防災科学技術研究所（以下、防災科研）との共催で「第 17 回 国土セーフティネットシンポジウム」を、「災害から学ぶ新たな防災技術」をテーマに開催した。

シンポジウムは、防災科学技術研究所 理事長 林春男氏の開会挨拶、文部科学省研究開発局 地震・防災研究課竹内課長の代理として防災科学技術推進室・室長 松室寛治氏および内閣府政策統括官 科学技術イノベーション担当参事官の宮武晃司氏の来賓挨拶で始まった（写真 1、写真 2）。



写真 1：シンポジウム会場



写真 2：防災科学技術研究所 林理事長

来場者は、関係者を除き 202 名、過去最高となった。

基調講演は、理化学研究所 革新知能統合研究センター 副センター長 上田修功氏による「AI が切り拓く未来の防災技術と展望」というタイトルでご講演頂いた。本シンポジウムで理化学研究所が講演を行うのは初めてであり、多くの分野で AI 技術の活用が注目される中で、防災分野での AI を活用した取組みと方向性について熱く語って頂いた。（写真 3）。

今回は、後援機関としても参加頂き、理化学研究所の新しい組織でもある AIP センターの研究体制も紹介され、グローバルに展開する AI の現状と防災への取組みについて会場からの質問も多かった。



写真 3：基調講演（理化学研究所 上田氏）

内閣府が主導する SIP プログラムについては、本シンポジウムでも多く取り上げ、その現状について紹介する企画を推進してきた。プロジェクトは後半に差し掛かり、それぞれの研究成果の社会実装への取組みを本価格化する中で、プログラムディレクターである東京大学地震研究所 堀宗朗教授より『「SIP レジリエントな防災・減災機能の強化」の研究成果と社会実装の現状』について講演頂いた。

引き続き、その具体的な研究成果について防災科学技術研究所 総合防災情報センター センター長 白田裕一郎氏より、「府省庁連携防災情報共有システム“SIP4D”の実災害適用を通して得られた効果と課題」と題して豊富な活動実績が紹介された。

引き続き、同研究所 レジリエント防災・減災研究推進センター センター長 藤原広行氏より、社会実装が本格化した『リアルタイム地震被害推定・状況把握システム』の現状と課題」と題して民間利用への精力的な活動等が報告された。

これらの SIP プログラムに関して、REIC でも社会実装に向けた支援団体としての役割を果たすべく現在の活動状況を、REIC 理事長 大保直人氏より今回の最後の講演として報告させて頂き、展示ブースでの紹介も兼ねて、来場者に協力を呼びかけた。

閉会の挨拶は REIC 会長 早山徹氏より、講演に関する御礼と感想、および今後の REIC の活動方針を紹介した。

展示ブースでは、緊急地震速報および緊急津波避難情報システムの紹介に加え、昨年秋に立ち上げた「ハザード・リスク実験コンソーシアム」の紹介を行った。(写真 5)。

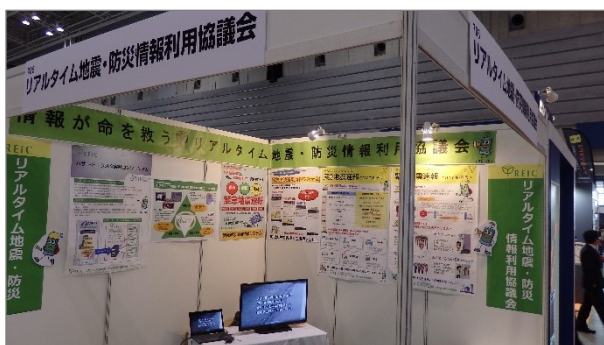


写真 5 : 展示ブース

なお、「第 17 回 国土セイフティネットシンポジウム」のプログラムは次ページに掲載。

第 17 回 国土セイフティネットシンポジウム
「災害から学ぶ新たな防災技術」
～Society5.0 で活かす防災技術～

プログラム

- (1) **開会の挨拶** 林 春男 防災科学技術研究所 理事長
- (2) **来賓の挨拶** 竹内 英 文部科学省研究開発局 地震・防災研究課
課長
- (3) **来賓の挨拶** 宮武 晃司 内閣府 政策統括官 科学イノベーション担当
参事官 (安全社会担当)
- (4) **基調講演「AI 技術が切り拓く未来の防災技術と展望」**
上田 修功 国立研究開発法人理化学研究所 革新知能統合研究センター
副センター長
- (5) **『SIP レジリエントな防災・減災機能の強化』の研究成果と社会実装の現状**
堀 宗朗 SIP「レジリエントな防災・減災機能の強化」プログラムディレクター
東京大学 地震研究所 教授
- (6) **「府省庁連携防災情報共有システム"SIP4D"の実災害適用を通して得られた効果と課題」**
臼田 裕一郎 防災科学技術研究所 総合防災情報センター センター長
- (7) **『リアルタイム地震被害推定・把握状況システム』の現状と課題**
藤原 広行 防災科学技術研究所 レジリエント防災・減災研究推進センター
センター長
- (8) **『リアルタイム地震推定情報の実験配信』コンソーシアムについて**
大保 直人 リアルタイム地震・防災情報利用協議会 理事長
- (9) **閉会の挨拶** 早山 徹 リアルタイム地震・防災情報利用協議会 会長